

医療・看護安全対策委員会情報（2006. 8月号）

『 看護師が関与した医療事故報道について 』

2005年に報道された看護師が関与した医療事故の概要が、日本看護協会から報告されました。主な情報源は、全国紙5紙とインターネット、都道府県看護協会からであり、全てを看護協会が把握することはできていませんが、報道総数は84件でした。報道されたもののうち、件数が多かったのは以下の5項目です。



○与薬（注射・点滴）：全23件

キシロカイン、高濃度塩化カリウム製剤に関するものが2件。

減少したものの0ではない。（5件→2件）

○与薬（内服・外用）：全4件

2件は違う患者への与薬です。与薬後、患者は重篤な状態に陥ってはいませんが、発見後の患者対応が不適切であるため患者の不信を招く結果となっています。

○処置：全21件

手術・処置時のガーゼ等の遺残は相変わらず多く19件。

○機器一般：全8件

気管カニューレに接続する器具の間違いによるものが3件。また、アラームに適切に対応する環境が整っておらず、異常の発見や対応ができていない事例が3件ありました。

○人工呼吸器：全4件

11件から4件に減少しており、全事例が接続はずれによるものです。接続部が少ない一体型の回路の導入や、使用機種を制限することによりエラーを防ごうとする動きがあります。

※詳細は、日本看護協会ホームページ「医療看護安全情報」をご参照ください。